

六葉会 会報

2018年
4月号



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>

表紙を飾る

版画家 大庭 明子さん

(23回生)

カラフルでパワフルな作品で
幅広く活躍する大庭さん！
みなさんの応援、
よろしくお願い致します。



表紙の作品介绍

「BuZzer Beat」 17.2×19.5 (cm)

スキーが上手になりたくてスキー部に入って競技スキー部と知り落ちこぼれた運動神経の乏しい私ですが、スポーツは面白いです。見ていても楽しい。

バスケットボールは時々題材にしています。テレビで見たゲームも記憶していますが、やはり原点は高校時代の同年代のカッコいい男子の勇姿。今でも思い浮かびます。私の記憶ではなぜか全員ランニングシャツ。で、今更なのですが何でゴールが 20CENTRY なのかはお気になさるぬように。

大庭明子（おおばあきこ）

1956 逗子市生まれ。東京造形大学絵画科版画研究室にて馬場栲男氏に師事、卒業。神奈川県美術展、日本版画協会展などで受賞。イビザグラフィック展（'84）、ビトラ国際版画トリエンナーレ（'94）、他に出品。文化庁芸術家国内研修員（'85）を経、各地で個展開催。主な挿絵に山北宣久著『福音と笑いこれぞ福笑い』（教文館）、林あまり著『光を感じるとき』（教文館）、絵本に中川ひろたか・大友 剛著『ことばのくにのマジックショー』（アリス館）、荻田澄子著『にくまん どっち？』（アリス館）など。

<http://www.obaakiko.com>

C O N T E N T S

大庭明子さんプロフィール	表 2
副会長挨拶	1
校長挨拶	2
島田先生/藤田先生/白根先生 追悼文	4
第 2 回生の時代を回顧して	6
学士院賞を受賞して	8

暑かった、パーベキュー!! / 第3回の六葉会懇親旅行	10
学校便り	11
同期会レポート	12
クラブ活動訪問	15
親睦ゴルフ大会報告・お知らせ	16
第 66 回生学年幹事氏名・六浦祭お知らせ	17

六葉会の活動に参加しませんか

六葉会副会長 蒲谷 茂（19回生）



六葉会の会員の皆様こんにちは。
平素は会の活動にご支援とご理解をいただきましてありがとうございます。私は19回生の蒲谷茂でございます。会運営のお手伝いさせていただきます。多くの方々が携わられて継続してまいりました永い時の中で一部の期間ではありますが楽しく参加をさせていただき感謝をいたします。

思いますと本校に在学した6年間の中での上級生、同級生そして下級生は限られた範囲にありました。六葉会の活動の中では在学中の年

齢の上下間をはるかに超えた年代の方々とお目にかかり同じ目的のために共に時を過ごしかわりを持ち貴重な経験をさせていただいております。

会の運営の作業は確かに忙しく動く場面もあり時間を割かれることもあります。もちろん本分は会を円滑に運営することでありますが皆で楽しみながら活動することが大切であると思います。サークル状態になるよう心掛けております。夏のバーベキュー、お馴染みの六浦祭での「六葉会の部屋」設営、秋の小旅行、新年会、会報の発行、総会の

開催、そしてそれぞれの反省会（呑み会？）や打ち上げ。このようにして楽しみながら1年間を過ごします。

クラス会や学年会の通信費の補助は多くの卒業期の方々にご利用をいただいております。

六葉会の活動に参加しませんか。いつでも門戸を開きお待ちしております。

わたしたちは会の発展と継続のために微力を尽くします。これからも変わらぬご支援とご協力をお願い致します。

会員の皆様のご健勝と心豊かな日々を祈念いたします。

六浦の英語教育—これから と その根底にある社会観

— Success and Empowerment through the Lingua Franca —

関東学院六浦中学校・高等学校校長

黒畑 勝男



10年後、中学1年生が独り立ちする頃、社会は2025年問題がさらに進行した状況にあるでしょう。国立社会保障人口問題研究所はかねてより、2025年には75才以上の人々が総人口の20%を占めると示しています。さらに2040年問題として、総人口に占める65歳以上は36%になると推定しています。その問題は、65歳以上が人口の40%以上を占める自治体の数が全国で900にもなるということで、消滅の可能性のある市町村が全国の自治体の49.7%になるということを指摘していることです。

2025年も2040年も、日本国内の日本人の出生率と平均余命率から推測されるデータです。人口の回復は無理ですから、当然ながら社会は持続を目指して変化していきます。言うまでもなく少子高齢化で介護のニーズが高まり、働き手の国際化が急速に進行していきます。

また、日本企業の営業の比重が海外へと高まれば、総合職や海外担当の営業職でいつそう国際化が進むでしょう。製造業においては勿論、あらゆる職種で採用人材の国際化が進んでいます。一方でロボットやAIの浸透は止まりません。いきおい、子どもたちの働く社会はどうなるのか……と不安に思うばかりです。ただ、職業種と就労環境の変化で、国内のグローバル化とボーダーレス化がとて深く進んでいくことは間違いありません。日本の子どもたちのそれへの備えはとても重要です。

一昨年、学院各校が掲げた「未来ビジョン」で関東六浦は、「国内でのボーダーレス化が進む社会で、たくましく生きる人を育てる学校とします」と謳いました。これまでの進路の方程式では将来を見通せなくなる未来が来ます。子どもたちが確かな自信をもつて生きてゆくために、いま学校は何をするべきなのか、10年後を考える

教育とは何なのかを六浦は真摯に考えていきます。昨今話題になっている新しい「学力観」は、本校にとっても大きなチャレンジです。関東六浦は、そこに学問的にも理にかなう「気づき」(メタ認知)を掲げました。同時に、どんな風にそれを論じたとしても、豊かなコミュニケーションと世界共通言語(Lingua franca)としての英語の習得は、これまで以上に必須であることを見据えました。

横浜の私学の中で、自信をもって先駆的と言える英語教育改革を2015年度にスタートさせました。ネイティブとは呼ばないGTEs(Global English Teachers)スタッフの充実を図り、生徒の母語力など様々な状況を考慮した上で、教授法にCLIL(Content and Language Integrated Learning)を導入しました。18年度で4年目を迎えます。この3年間で、新しい関六(かんむつ)カラーを出しています。19年度の高校1年生か

らは、英語をツールとする学びをさらに打ち出すGLE(Global Learning through English)プログラムをスタートし、関連する高校入試を展開します。18年度、今年はそれに先駆け、その中核となる内部進学生(18年度中学3年生)を対象にPre-GLE教育を開始します。

本校の英語教育の特化とCLILの導入には強い確信があります。いま作成中のGLEプログラムのパンフレットには、*“We believe strongly that the earlier the students realize they have the ability to use English effectively, the more enthusiastic they will be about their futures in our changing world.”*と記します。子どもは、英語を効果的に使えるようになるのが早ければ早いほど視野が広がり、変化の激しい世界の中にある自分の将来を、いっそう真剣に考えるようになるからです。

つまり、英語は昔でいう「識字力」な

のです。識字の力を持つか持たないかで生き方や人生のあり方が変わる時代がありました。英語運用力は、新しい意味での識字力なのです。勿論、日本語を介しての基礎学力の習得の重要性は言うまでもありません。しかし、もう一方で、英語の習得が、世界の趨勢からは「ガラバゴス的」とも言えるほど独特に、「教科」扱いになってしまったことを深刻に考えなくてはなりません。「教科」ではない、ということを生徒たちに強く語っています。英語は生きる力なのです。関東六浦の教育の信念を新たに結実させていきたいと思っています。

4月からの校長二期目就任を拝命しました。2014年の入職時に「温故創新」と語らせていただきました。キリスト教に基づく、変えてはならない不変の建学の精神と校訓の上に、あらためて関東学院六浦の誇りを皆さんとともに語り継いでいきたいと思っています。

島田先生と平瀉湾

井澤 幸恵（9回生）



あったが、授業にはとても熱心。数学は苦手なのにどうして女子大に進みたいと思ったのか判然としないが、先生個人に惹かれるものがあったのだと思う。

三年間同じ担任

島田澄子先生は平成二十八年の十一月に逝去された。東京女子大を卒業後にご主人を亡くされ男児とともに残された。その後、関東学院六浦に数学教師として奉職。クリスチャン。以前、米寿のお祝いお送りしたら電話がかかってきて叱られた。「あなたのお母さんより一つ下だから私はまだ八十七歳よ」すごい記憶力に脱帽！そうすると大正八年生まれだろう。

九回生の私は高校一年次より三年間受け持っていた。中学は女子だけだったので共学のクラスは初めて。校舎はおんぼろで両脇を補強のためつつかえ棒がなされ教室の真ん中には柱があり、机はでこぼこで下敷きは必需品だった。用務員さんは金槌と板切れをもっては歩き回り修理に忙しいうとよくこぼれていた。風が校舎を自由に出入りして冬はさぞかし寒かったらうに記憶にない。そのかわりというかグラウンドはどこまでも広く空が大きかった。狭い教室に五十四名がぎっしり。授業前には先生が聖書を読まれた。教訓めいた話もキリスト教の教義や逸話にもあまり触れられずあっさりと終わった。

髪はひつつめで化粧つめもなく服も地味で

だったためかわがクラスはよくまとまっていた。毎年のようにクラス会が開かれる。事務的な事もふくめて面倒事をいっさい引き受けているのは男子たち。そのうちの一人である医師は、先生が電話で相談すると即駆けつけていたと聞く。どんなにかん丈夫であつたらう。

平瀉湾沿いのマンションの一室にお住まいだった。海面を行き来する釣り船や湾の向こう側の関東学院を眺める日々。教師を辞めてからでも大学の数学科で学びおし自宅で生徒を教えていらした。

最後に伺ったときは、陽射しと海面からの照り返しで部屋内に光があふれ、まるで異世界を浮遊しているような不思議な感覚だった。聖書を書き写すのを日課にしているとおしやつて見せてくださったのは、横書きにびっしりと文字でうまれた大学ノート。近くに住む息子夫婦が毎日来てくれるし教会の仲間や生徒も訪ねてくれる。アイスティーもおいしいけど足がね、痛いのと苦笑まじりに語られた。

その人を思い出す人がいなくなった時、初めてほんとうの死が訪れると言われる。たくさん教える子の心のなかの島田先生が時折りふわっと浮かびあがる・・・。

堂々たる伝道

白根新治先生

追悼

手塚 裕貴（39回生）



「しらねのつつあん」。白根先生にお会いする前から、ことあるごとに聞いた呼び名だった。これを聞かせたのは、私が父同然に慕う大井川先生。「しらねのつつあん」はね、と、温かな親しみを込めて昔話をしていたのを想いだす。1985年入学の私は、白根先生の現職時代を知らない。故に、遠くに住んでいて会ったことのないおじいちゃん「そんな存在だった」。

大学卒業後、しばらく教会を離れた私は、白根先生が牧師をつとめておられた日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会に導かれた。先生は当時81歳。しかし、その説教は堂々と力強く、何より余計な前置きなく、いつでも体言が第一。一声の説教は迫力があった。諸先輩方や古の関東六浦の諸先生方は、きっとこの堂々たるメッセージを母校の礼拝堂でお聞きになられていたことと思う。

この伝道のパワーの源は何か。1955年、白根先生32歳の時、中1の天城山荘宿泊行事に

ひとことと言うと、歳を重ねるごとに、
ますますありがたみのわかる先生。
藤田先生、信念の人でした。

小池 慎介(26回生)



「高校2年4組藤田先生」担任の発表があったとき、その印象は、銀幕(スクリーン)から飛び出してきたような、とてもインパクトの強い往年の映画俳優のイメージでした。時間に正確でベルが鳴る前に教室に入っており、遅刻者は中から鍵を掛けて入れてもらえない。階段教室で上下式の黒板をフルに使い、図を書いてポイントを押さえて、ゆくり丁寧に菌切れよく、メリハリをつけたがら説明をされる。試験は容赦なく落第点がつく。おそらくご自分自身にも厳しく、その熱さが伝わってくる方でした。怠けたい気持ちも少しでも伝わると、こんどは理詰めで叱られる。それだけに我々生徒にも決して妥協を許すことなく、どこへ出ても通用する、質の高いものを求めていらしたのでしょう。

職員室を訪ねると、片隅に置いた植木鉢の花にニコニコしながら水を遣りながら、「ところで小池、大学はどこ受けるの? 将来何になりたいの?」そのとき、おこがましくも私は「学校の先生ってなるの大変なんスか? 仕事きついスか?」などと子供っぽく質問をし

たこともありました。すると「君たちも勉強大変かもしれないけれど、教壇に立つのは俳優さんが舞台に立つのと一緒で、授業のために何時間もリハーサルや準備をする、それから身だしなみなどにも気を使うし、もっと大変なんだよ」とにかく給料もらうのは真剣勝負、家族を守るためにはとにかく勉強してもっと働かなければならないんだよ」と、京都弁交じりでやさしそうに話して下さった非常に繊細なところも今でも覚えています。そんなことを繰り返しながら、世の中を斜に構えて見ていた自分にも、厳しい中にも最後は助け舟を出してくださる優しさを感じました。今思うと先生の真剣に臨む姿勢すべてが「プロフェッショナル」という言葉に凝縮されていたように思えます。あれから40年、今でも藤田先生が夢に出てきて、「言いたいことがあるのなら、やることやってか言いなさい!」などと諭されそうです。昭和時代の関東六浦を支えていた個性的な先生がお亡くなりになり寂しい限りです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

向けて書かれたことは、(指導者になる為には二倍の努力が必要です。指導者とは「神を恐れ、而も神と人へと愛せられる完全人」を意味します。(中略)よし例えその名は聞えずとも、その存在は問題にせられずとも、その置かれた場所、所に於てなくてはならぬ人物となり、その人が居る事によつて他のものが潔められ、高められて行く」と云う様な人物を生み出すことが学院の教育であります」1

そして1983年、60歳(確かに宗教教育の行われるところ、そこに、あざけりがあり、疑問が続出することもあるが、必ず素直に聴いて信ずるものが少数ながら出現するの不思議である。(中略)いずれにしても、まかぬ種は生えない。まさ、そして水を灌ぐならば、育ててくださるは神である。これは真理である。)2

先生自身が、関東学院のめざす指導者像を若き日より追いかめ、吹き猛る時代の風にも揺るがず、時の思想の波にも流されずに、弛むことなく努力を続け、神を畏れ信頼し続けられたが故であったことと思ふ。

関東六浦の卒業生としての生き方を、その背中で示してくださった先生に心から感謝するとともに、母校が原点を見失わずにその使命を全うできるよう、あらためて主に祈りたいと思う。

1「六浦教育第5号」

(1955年5月27日発行)※原文通り
2「三千年史」

(1983年10月1日発行)※原文通り

伊藤清先生は本年3月7日に

ご逝去されました。

ご冥福をお祈りいたします。

第2回生の時代を回顧して

清水 尚(2回生)

2回生と言うと、未だ2回生は生

きていたのかと言われそうですがまだ生き残っております。六浦の地で高校を卒業したのは忘れもしない昭和二十九年三月で、今年で卒業後六十四年になります。思えば長い月日を生きて来たと思います。同期会は長年に亘つて毎年四月に開催してきましたが二年前からは年四回の開催に発展しました。年に四回も開催する同期会とは一体何なのか、その存在とその意義は何なのでしょう。

第二回生が生きて来た時代とはどのような時代であったのか、少し後の方々には分かり難い事でしょう。私達二回生は、戦場で戦死された多数の方々の数年後の世代ですので、直接に生死を分ける事態に直面してはいません。しかし、あの戦争の影響を大きく受けた世代であると思います。この意味で二回生は極めて特異な時代を生きて来

たと思います。

昭和十七年四月に前年度から名称が変更された国民学校に入学しました。既に前年の十二月に戦争は始まっていた。入学したばかりの四月十八日にいきなり空襲警報が鳴り響き、何事かと驚く間もなく空襲の恐怖を経験しました。太平洋上の空母ホーネットを発進した米爆撃機による最初の日本本土空襲があり、私は当時も横浜在住でしたが、突然に巨大な爆撃機が超低空で頭上に迫り仰天しました。その秋には横浜港に停泊中のドイツ海軍艦船の弾薬庫の大爆発事故で午前から午後にかけて断続的に誘発する爆発音が授業中の生徒達を驚かせました。

昭和十九年七月頃に突然に学童疎開が始まりました。玉碎したサイパン島を含むマリアナ諸島全域を失い、日本本土爆撃という悪夢が現実のものとなったからです。夏休み中のためであつ

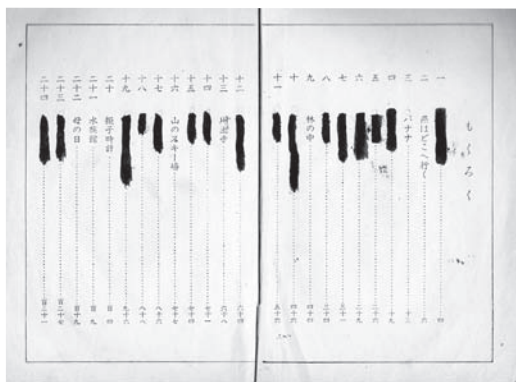
たのか、級友たちと別れを交わした記憶もないまま、慌ただしく私は縁故疎開で長野県内の国民学校に転校しました。この転校先では担任の先生が召集令状により出征することになり皆で村の停車場まで見送りました。翌年二十年三月には沖繩への米軍の侵攻をラジオで聴き、大きな不安の中で沖繩という島の存在を初めて知りました。

その五月には横浜大空襲のため我が家が焼失、幸い父母は無事でしたが、母も疎開して来ることになり、同じ長野県内の別の国民学校に転校しました。そしてその八月ラジオで終戦の詔勅を聴きました。夏休み後の学校では、これからの日本の教育に不当とされた教科書のかなり多くの頁を切り取りあるいは墨で塗り消しました。その頃、占領軍のジープやトラックの長い車列が県庁所在地である長野市へ向かつて進駐するのを恐々と物陰から覗いていました。栄養不良で痩せて貧相な日本人に比べ、栄養満点で血色も良い米兵達のたくましい体躯が印象的でした。

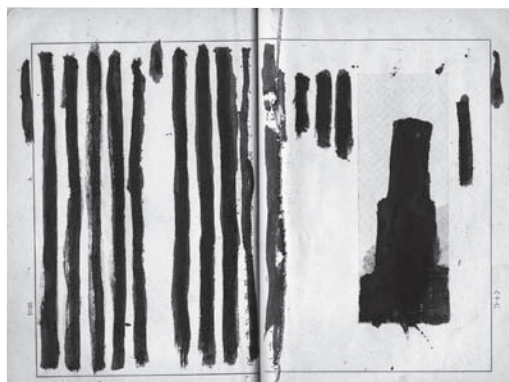
戦後は五年生の秋に疎開先からやつと横浜へ戻ることが出来ました。六年生への進級時には名称が国民

学校から小学校に復し、翌年の昭和二十三年三月に小学校を卒業して四月に関東学院中学校に入学しました。

この頃の日本は戦後の混乱期にあつて衣食住の全てが不足する中、親の苦労をよそに、2回生達は比較的に恵まれた学院生活を享受できたと思います。私自身は中学二年生の頃、創部されたばかりの天文気象部に入学しました。電力不足の当時の横浜の夜空は



目次も黒く塗られました



全文を塗りつぶされています

暗く天体観測には絶好の条件で銀河の流れも見事でした。また、射手座辺りに眼を向けると多数の星雲や星団が見えてその美しさに感嘆し、また秋の夜はアンドロメダ大星雲が肉眼でも見えて宇宙の神秘に酔いしました。

秋の文化祭のための富士登山による気象観測を部員数名で計画し実行しました。しかし当時の登山開始地点である三合目からの裾野は予想外に広く長く、山頂まで全員が到達はしましたが観測器具の重さも加わって疲労困

憊し、気象観測どころではなくなり計画は見事に失敗して文化祭の目玉を失い大慌てした記憶があつて懐かしい思い出です。またその頃、家にあつた明治大正昭和文学全集や世界文学全集の面白さによりやく目覚めて読み耽り、時に白々と夜が明けて来る気配に気付き慌てて布団に潜つたこともあり

ました。

当時の事を懐かしく思い出すままに少し記してみました。文の初めの方で、同期会の存在とその意義は、などと大きなことを記しましたが、私自身適当な答えが見つかりません。しかし、同期生とは同じ時代の同じ空気を吸って共に生きて来た仲間であり、久し振りの再会であつても「やあ」の一言で全てを解りあえる存在であると思います。他の物には替え難い無形の宝の様な存在です。

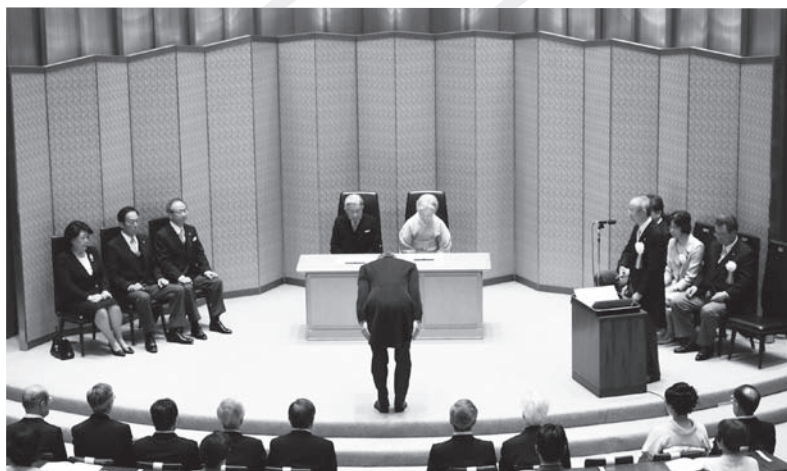
同期会でただ一人最後まで生き残つた者が、先に逝つた全ての同期の友を偲びながら、滂沱の涙と共に己自身に向かい、万感の思いを胸に静かに同期会の解散を告げることが出来得るとすれば、この幸せ之に過ぎるものはないかも知れません。

学士院賞を受賞して

京都大学名誉教授

清水

展 (18回生)



天皇皇后両陛下にお辞儀する清水さん

学士院賞のこと

第107回学士院賞を受賞しました。学士院賞の歴史は古く、第1回が明治44年です。戦争中でも中断されずに続いてきました。6月12日にあった授賞式には、上野の学士院まで天皇皇后両陛下がお出ましくございました。式典が午前中にあり、両陛下をお見送りした後、お昼には立食パーティー。そして午後には、逆に皇居の吹上御所に10人の受賞者がお招きいただき、茶話会をしていただきました。

茶話会といつても、お茶にお菓子、コーヒーにケーキではありません。前菜からデザートまで、量は少なめですが、6皿ほどあるフレンチのフルコースでした。ワインと日本酒が出ました。受賞者10人は5つの丸テーブルに2人ずつ分かれ、それぞれに天皇皇后陛下、皇太子殿下、秋篠宮両殿下、宮内庁長官らが座られました。でも15分くらいで順番に席替えをされて、すべてのテーブルで受賞者と親しくお話しされました。

両陛下、両殿下とも、とてもよく勉強を

されていて、各受賞者の業績の内容もご存知でした。相手に合わせた話題を選ばれ、さりげない気遣いを感じました。近くでおいし、親しくお話しできたのは、今回が初めてでした。柔らかな物腰と優しいお人柄に強く印象づけられました。

授賞対象の研究

とても権威ある賞ですが、毎年の受賞者10人ほどのほとんどは理系です。今年は運良く文系から2人が選ばれました。私は、フィリピン北部ルソンの山奥の村で、1998年から毎年1週間から1ヶ月ほどの滞在調査を15年続けた研究書『草の根グローバリゼーション―世界遺産棚田村の文化実践と生活戦略』(京都大学学術出版会、2014)が高く評価されました。ユネスコの世界遺産に登録された、バオ村で、住民の主導による植林運動と文化復興の研究です。

その村は、アジア太平洋戦争の末期に山下奉文(ともあき)將軍が率いる日本軍

の主力部隊が最後に立てこもった地域にあります。それほどまでに接近困難な険しい山奥にあるのですけど、350世帯1800人ほどの村から、過去25年くらいのおいだに170人を超える村人が海外出稼ぎに出ています。行く先は、台湾、シンガポールほかアジアが多いですけど、欧米や中東など、27カ国にわたります。3/4は女性で、主に住み込みの家事手伝いの仕事です。フィリピンの山奥の小さな村が人の移動によって世界の各地と直接に結びついています。1990年代初に冷戦が終わったあと、グローバリゼーション（+ネオリベラル経済）が世界を席巻し、人々の生活を変えています。その変化の相を、個別具体的な現場、できたら世界の辺境で見たい、感じたい、考えたいと思って始めた研究でした。

文化人類学研究の原点

私の専門は文化人類学です。それは、動物としてヒト（人類）の共通性と、個別の言語民族が持つ／を作り上げる文化の特性、異性多様性を合わせて考えようとする研究です。異文化の理解を入り口として

いますけど、それを迂回した自文化の理解そして、自他の違いと同じを包摂した、ヒト＝人間の総合的理解を目指しています。風車に突進するドンキホーテの蛮勇だか、そこに通じるかもしれません。

そんな学に興味をもったのは、関東学院六浦で小学校から中学高校まで、礼拝があり、賛美歌を歌い聖書を読みキリストの教えを学んだことと関係があります。横須賀の引き揚げ者寮の、貧しさと暴力が吹き荒れる世界で生まれ育ちましたから、関東六浦の穏やかで優しい世界が居心地よかったです。と同時に、京浜急行で2駅しか離れていない寮と学校とが、まったく違うルールと雰囲気の世界であることを強く意識していました。文化が違う人間、違うコミュニティを作ることに対する興味は、そこから始まったと思います。

それと、関東では中学高校の受験がありませんでしたから、受験のための勉強をする必要がありませんでした。高1までテニス部において高2の夏から本格的に受験勉強を始めました。その時、頭と心と体が受験疲れをしていなくて、割合と効率よく準備ができました。また級友たちが、フォークやロックやブルースに詳しくて、いろ

いろ教えてくれ、それに影響されて音楽と映画が大好きになりました。とりわけ中村悠介くんに大感謝です。おかげで、青春時代を楽しく豊かに過ごせました。

そして春に定年退職して自由になった今、ほんとうにやりたい研究がはつきりしてきました。私自身の自己形成に大きな影響を与えたキリスト教と米軍基地とポップカルチャー（FEN放送、ニューシネマファクション等々）について、60年代後半から70年代にかけて掘り起こすことです。1970年に高校を卒業した後、長い旅を経て、ふたたび関東六浦の世界に戻ってきたような気がしています。



外国人と談笑する清水さん

暑かった、バーベキュー!!

朝から蝉の声がうるさい快晴の8月19日。某幹事宅に六葉会会員有志が集まりました。幹事の親睦を兼ねたバーベキューの日です。一部の会員は朝から肉を焼き、今や遅しと皆が集まるのを待ち構え、準備に動しんでいました。三々五々参加者が集まり、持参の飲み物をグイグイと啣っていききました。因みに飲み物は自分の好みものを持ち寄り、料理は会費からというシステムです。食卓の上には肉や野菜等料理が並び始めると、皆は食べ、飲み、そして活発に話をしています。焼き方を担当した人は、皆の食べっぷりを見ながら適宜肉を焼いたり、野菜を焼いたりと大忙しです。

今日の会場を提供してくださった野本さん(20回)のお手製ビーフシチュウが供されました。こんな具合に心行くまで皆でバーベキューを楽しみました。日常の幹事会では時間の関係もあり



参加者で記念撮影

りますが、中々突っ込んだ話まで出来ないこともありましたが、今日は皆盛んに話をし、有意義な一日を過ごしました。今後も親睦を兼ねたバーベキューを開催していきたいと思っています。

第3回の 六葉会懇親旅行 初冬の信州を訪ねて



みんな揃って楽しい夕食

11月12日第1の目的地の『眞田丸』で注目の観光スポット信州上田の上田城址へ向けて出発しました。上田城址に到着すると目を疑うような紅葉が迎えていて、城内を散

策し絶景を満喫する事が出来ました。次の目的地無言館へと向かいました。無言館は『戦没画学生慰霊美術館』と言われるそうで、多数の作品が展示されていました。美術館を後に目的地の昼食会場へ向かいました。昼食会場は、鎌倉市と姉妹関係を持つ上田市の松茸料理のフルコースを充分堪能しました。

二日目は寒い日で、ホテルを出て石の教会へと向かいました。無教会思想をもつ内村鑑三の記念館です。どこでも祈る時それが教会になるという思想、石に囲まれ水の音だけが静かに聞こえずっと座って祈っていたくなるような教会でした。

軽井沢で昼食を頂きその後、アウトレットに寄り無事に帰宅しました。

先輩後輩と楽しい時間を過ごさせていただけで、来年も、新しい仲間が増えたらもっと楽しいだろうなあと思ったこんな素敵な出会いがあったことに感謝したいと思いました。

2017年10月27日・28日

六浦祭



島根会長から生徒会長に



の活動報告、露店、礼拝堂では演劇部・吹奏学部の講演が行われていて在校生の皆さんの「YOLO」がしみじみと感ぜられました。

六葉会の部屋ではドローンを使った学校案内を作成し放映したところ、多数の方より好評を得る事が出来、又、例年同様に卒業アルバム展示をして卒業生、在校生の興味を引く事が出来ました。今年も島根会長から生徒会長に在校生支援金が贈呈することが出来ました。今後も同窓会が母校の発展向上の為に協力し活動をしていきたいと思っています。卒業生の皆様のご理解とご協力をお願いします。



入口付近には受付のテントが張られました



毎年、大人気の茶道部です



人間が乗れる電車も

今年度も多くの学年で同期会やクラス会が行われました。六葉会に連絡を頂いたものを、ここに掲載させていただきます。六葉会では通信費の補助金を差し上げたり、住所録の用意をしつたりいろいろなサポートをさせて頂いています。成人式の年にはまた還暦の記念にと様々な年齢で行われているようです。

六葉会への連絡はお手数ですが、手違いを防ぐためにメールでお願いしております。

- ・開催日時
- ・開催場所
- ・お見えになった先生方のお名前
- ・お集まりになった人数
- ・集合写真
(会報に載る時にはモノクロで縮小しますので個人が特定される可能性は小さいです)

こちらにお送りください。
info@rokuyoukai.com

2017 年度 同期会 レポート

2017年5月17日(水) 1回生

毎年5月の第3水曜日に行っている1回生の同期会(一期会)を今年も5月17日(水)に横浜崎陽軒本店にて男性21名、女性7名が出席し開催しました。超高年齢になりましたが学生時代を思い出し、語り合う楽しい会になりました。

卒業して64年が過ぎ、その間には多くの仲間が鬼籍に移り、寂しさが増え、改めて時間の重さを感じますが、関東学院での出会いは生涯消えることなく、今日、私達の絆の基となっているのは確かです。3時間、楽しく歓談し、これからも一期会の継続を持ってお互いの友情を深めることを誓って閉会しました。



2017年10月7日(土) 21回生 3年2組クラス会

10月7日 上大岡「ビストロ ラトゥール」於いて第44回目のクラス会が開催されました。昨年は学年同窓会と合同開催となりましたが今年は例年通り単独開催で行うことができました。大西先生も元気に出席して頂き大変わらず昔話に花が咲きいろいろあったが楽しいクラスだったね、2組でよかった。で締めくくりました。



2017年4月17日(月) 2回生

春本番の季節を迎えた去る4月17日(月)、正午、横浜中華街の本通りから入った香港路にある順海閣本館において、平成29年度最初の春季同期会を開催しました。

1昨年の平成27年7月に開催の夏季同期会から今年1月開催の新年同期会まで季節毎に都合7回に亘り会合を持ちました。しかし、そのいづれもが、いわゆる新形式として日時、会場を決めるのみで予めの出欠を問わず、一般席の一隅を予約する方法を採ってきました。今回は二年ぶりに個室を用意し、会費を定め、予めの出欠を得る会合としました。これにより他のお客に遠慮することなく声高に会話し、校歌斉唱も出て良かったと思います。

しかし、このところの新形式の会合、つまり、原則として各自が自由に注文しそれぞれが支払うという方式にすっかり慣れきっていました。このため、今回は全体としての料理や飲物の注文をすべきことをすっかり忘れて気付かず、お店の人から催促されて、慌てて人数なども確認する始末で、世話人としては失態でした。慣れとは怖いものです。今回は会費を2,000円(2万円ではありません)としました。これはこの店の売りというか、目玉商品とも言える「毎日、50人様限定、1,200円(税抜き)」というメニューがあって、内容としてこれで十分ではないかと判断し、これに飲料分を加えても2,000円の会費で足りると思えました。これで足が出る分は繰越金を充てるつもりでしたが、結果としては若干のおつりがあって目算通りでした。この他、個人で3,000円弱相当のワインを注文したからとのことで、森武彦君から3,000円の寄付もあり、今回の他の経費(案内状の往復書代などを別にすれば、店への支払いは当日集めた会費内で納める事が出来た事は嬉しい誤算?でした。肝心の料理内容ですが、これも一見して4,000円相当の内容との評もあって、今回の会合はほぼ予定通りに開催出来て良かったと思います。やや懸念されていた天候も夕刻の帰宅時には所によっては小雨になった程度で済みました。今回の当初の出席予想は20名を超えるかどうかでしたが、実際は24名となりこれもまた嬉しい誤算でした。



2017年10月21日(土) 学士院賞受賞記念講演会

10月21日、18回生の清水展君(京都大学名誉教授)の日本学士院賞受賞を記念して、18回生有志主催による受賞記念講演、柴田杏里君のギターコンサートが母校礼拝堂において開催された。当日は黒畑校長、中田教頭をはじめとする多くの卒業生、退職された恩師、在校生、保護者も参加された。講演は本来の研究テーマの「文化人類学」の他、現在研究中の「アメリカの影の下での自己形成、横須賀が生んだ山口百恵と小泉純一郎、そして私」というテーマでも講演を行った。



2017年10月27日(金) 4回生

2017年10月27日に傘寿の同期会を横浜中華街「重慶飯店新館」にて開催致しました。村松先生、伊藤先生は出席されませんでした。参加者は30名(女性12名、男性18名)にて参加者のかくし芸の披露もあり、昔話を語り合い楽しい懐かしい一時でした。今後の同期会開催目標は米寿(88歳)に置きます。そして、従来毎年開催していましたが、先ずは3年後2020年(オリンピックイヤー) 10月某日に開催することに決めました。



2017年11月7日(火) 3回生

2017年11月7日に、横浜駅西口「ホテル・キャメロット」で、3回生同期会を開催致しました。残念ながら、恩師のご出席は叶いませんでしたが、女性16名、男性一六名が出席され、卒業後60年余を経て全員80歳を超えましたが、まだまだ元気に楽しい一時を過ごしました。(前回会合以来、5名の方が他界されました。氏名省略)



2017年7月1日(土) 40回生

六葉会に名簿があることを知らず、卒業アルバム+ネットによる連絡を頼りに49名が集まりました。奥山先生にも参加していただきました。2次会から合流したメンバもあり、大変盛り上がりしました。3次会には半数ものメンバが残り、25年もの時間の間を埋めるように大いに語り合いました。今回の幹事もその場で決まり、次の再会を誓い合いました。



2017年10月14日(土) 22回生 3年4組

10月14日(土曜日)鎌倉パークホテルにおいて関東六浦高等学校22回生3年4組のクラス会を開催いたしました。それぞれ忙しい中、担任の福田先生においてはお体が不自由にもかかわらず参加して下さいました。全部で18名の参加者がありました。久々のクラス会、あの頃を思い出しながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。昼から3時近くまで行われ、全員の健康と次回の再会を約束し散会いたしました。



2017年10月16日(月) 5回生

横浜中華街の福満園新館で互誼会が行われました。25名の参加がありました。



2017年11月12日(日) 12回生

ホテルオオクラストラサファイアで56名の参加者のもと楽しいひと時を過ごしました。

六葉会に用意していただいた在学当時の住所録が起爆剤になりました。



2018年1月8日(月) 64回生

成人式が行われた2018年1月8日(月)午後6時よりローズホテル横浜にて第64回生の同期会が行われました。

木村勇人先生、芹田先生、肥田真由美先生、八巻朱美先生、櫻井先生の5名の先生方をお招きして、130名の同級生が集まりました。とても楽しく、時間が過ぎるのがとても早かったです。

催しものはビンゴのみで、歓談の時間を多く取りました。卒業し、二十歳になっても学年の仲の良さが変わらない、いえむしろ増したと思うほど、良い時間と雰囲気でした。そして改めてこの学年でよかったと思えた時間でもありました。

それぞれの道に進みましたが、6年間共に過ごした仲間、一生の宝であると思います。

これまでのように毎日簡単に集まることのできない今、みんなの存在の大きさや、共に過ごす時間の大切さ、楽しさなど、卒業してからよく実感しました。何年経っても、また同窓会を開いてみんなで集まりたいと思います!

みんなへの思いを改めて感じることでできる 素敵で最高の同窓会でした。



2018年2月18日(日) 45回生1組 クラス会

2月18日、45回生1組のクラス会を無事に開催できました。

国近先生もいらしてくださり、卒業生参加者18名で先生を囲んで高校時代に戻ったかのようなひと時を過ごしました。



2017年11月5日(日) 7回生

キャメロットジャパンに恩師高木正浩先生をお迎えし7回生4クラス合同の集いには60名の参加者を得て行われました。高木先生は88歳の米寿を迎えられ大変お元気で声も昔のまま張りがありお姿も本当に若くビックリしました。高木先生は千葉県酒々井町(成田)より、ふたりのお嬢様と共に車で越えし頂きました。当初 お車でお嬢さんの運転で横浜にいらしていただく予定でしたが・・・当日、トランプ大統領の来日と重なり、この会に遅刻してはいけないというご配慮から車でいらしていただきました。先生は2次会を含め5時間私たちの交わりの輪に加わっていただきました。今回この喜寿の会をもって最終会の同窓会でしたが又この会を大切にしたいたび会おうという思いが強く継続する事となりました。石田禎子先生よりあたたかい、なつかしいメッセージをいただき参加者に感動をいただきました。77歳の私たちはまだまだ現役で活躍されている方も多く決して若くはありませんがまだまだお年寄りではないという感覚を覚悟し会となりました。以上ご報告申し上げます。



2018年3月18日(日) 10回生1組クラス会

2018年3月18日(日曜日)観光客で賑わう古都鎌倉の仕立屋 鎌倉店で今年のクラス会を開催いたしました。

担任だった伊藤清先生の傘寿のお祝いを行った8年前から先生のお誕生日に合せて3月に先生のお誕生会を兼ねて鎌倉にてクラス会を開催してきました。一昨までは先生も同席されていましたが昨年は体調不良で欠席され、今回のクラス会間際の3月7日にご逝去されたとの知らせがありました。

今回の参加者は15名で、先生のご冥福を折り献杯してから会を始めました。今年は同級生の多くが後期高齢者の年齢に達します。中には年齢詐称とも思われるような若々しい仲間がいますがこの年齢になると色々体に不調をきたしている方も多くおり、近況報告では欠席された理由が老々介護で高齢の親の面倒を看ている、東北、北海道に住む者は遠方で上京できない等々。中には同級生でハワイアンバンドを組んでイベントに備えての練習のためや文化庁の行事に参加、ボランティアで毎月1週間ほど山梨県道志村で木材の剪定や高い木に登って枝落しを行う体力のいる仕事等この歳まで頑張っている同級生がおります。

中でも年金生活しながら趣味を生かして地元で若々しく活躍されている同級生も多くおりました。そのような近況報告を聞きながら、皆さんから元気をもらって楽しい1時間があっという間に過ぎました。



同期会やOB会などの開催には六葉会から補助金を差し上げます!

六葉会は同期会の開催をお手伝いさせていただく意味で、同期会やクラス会を開催する幹事さんに、1クラスにつき3,000円の通信費補助金を差し上げております。住所情報の提供もしております。
同期会終了後に以下のものを六葉会に提供していただけたら幸いです。

- (1) 更新した住所録
 - (2) 同期会のレポート
- 皆さんの同期会が盛会となりますことを心よりお祈りしております。

将来につながる学び

（鉄道研究部が取り組む、実践的な未来戦略）

関東学院六浦中学校・高等学校の鉄道研究部は今年で創部8年目を迎えることになりました。初めは鉄道に興味のある生徒や顧問の有志が集まって活動した愛好会も、現在では正式に「鉄道研究部」となり、在籍約30名で活動しております。

この鉄道研究部の特徴は、1つは「鉄道をつくって走らせる」ことです。人が乗って走行するミニ鉄道を生徒が製作しています。5インチゲージと呼ばれる線路幅127mmの小さな鉄道や、20インチゲージ（線路幅508mm）という室内に乘車する本物の鉄道を校内や学外で走らせて研究しています。もう一つは「鉄道を研究する」傍ら、学校から外へ出て商業施設や公共施設、鉄道会社



人が乗れる列車の運行はどこでも大人気で

す。文化的な特徴として乗用鉄道を製作するときは、車両の設計や加工、電気配線などを考えながら製作するため設計や企画する時間をかけるため、学習につながる「学び」があります。また、土日祝日などに実施する校外のイ

などへ生徒が向向き、鉄道イベントにボランティアとして出展、開催を行っていることです。日頃の学校での活動は、鉄道ジオラマ模型の製作を行うことや、人が乗れるミニ鉄道の製作、さらには鉄道の情報を集めた編集作業などを行っています。そして土日祝日には製作したジオラマ模型やミニ鉄道などを運搬し、施設などで鉄道イベントとして来場されるお客様に展示体験をして頂いております。

このような少し変わった活動を行っておりますが、実は様々なところで多くの学びがあります。たとえば、ジオラマ模型を製作するときは、模型の色や建物の配置、限られた費用、人が観る方向や実在する建物の文化的な特徴として乗用鉄道を製作するときは、車両の設計や加工、電気配線などを考えながら製作するため設計や企画する時間をかけるため、学習につながる「学び」があります。また、土日祝日などに実施する校外のイ



精密なジオラマ

いますが、「心は人間に代わるものはない」と思います。「人になれ、奉仕せよ」の校訓のもと、鉄道研究部はその「心」を育てる貴重な活動場所です。この鉄道研究部に、卒業生の先輩方の応援をよろしく願います。

鉄道研究部プロフィール：・2010年4月鉄道研究愛好会として設立
・全国高等学校鉄道模型コンテスト出場（最優秀賞を2度受賞）
・ショッピングモールや百貨店、公共施設や鉄道会社などのイベントに出展（年間約20回）
・人が乗れるミニ電車を製作し、現在まで約9万人の乗車数となる。

高石 智一（43回生・顧問教員）
芹田 祐一（44回生・顧問教員）



20インチゲージ鉄道の敷設です

2017年11月9日開催

第11回卒業生親睦ゴルフが開催されました!

関東学院六浦中学校・高等学校 卒業生親睦ゴルフ大会



『毎年の楽しみ』

2017年11月9日毎回来し
みにしている、第11回卒業生親睦ゴ
ルフ大会に参加させていただきま
した。

「優勝!!」目指して年代を超え
て楽しめる素晴らしい大会だと思
います。微力ながらお手伝いさせて
いただいています。このゴルフ大会
でいろいろな先輩方、後輩達と出逢
うことができました。初めての方
でも楽しめますので是非参加して
いただきたいと思います。先輩方が
続けてこられたこの大会を絶やすこ
となく後輩へ繋げていきたいと思
います。いつも素晴らしいコンディシ
ョンで迎えてくださる「キングフィールズ
GC」の鈴木オーナーはじめスタッフ
の皆様には心から感謝しております。

大久保結子(39回生)

..... 次回開催のご案内

第13回 関東学院三春台校・六浦校 卒業生親睦ゴルフ大会

日 程 : 2018年7月12日(木)
参加資格 : 両校卒業生・在籍歴のある方・教職員(現役・
退職問わず)
会 場 : キングフィールズゴルフクラブ
会 費 : 20,000円(プレー代・パーティ費込)

第12回 関東学院六浦中学校・高等学校 卒業生親睦ゴルフ大会

日 程 : 2018年11月7日(水)
参加資格 : 関東学院六浦中学校・高等学校卒業生・在
籍歴のある方・教職員(現役・退職問わず)
会 場 : キングフィールズゴルフクラブ
会 費 : 20,000円(プレー代・パーティ費込)

関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会は開催曜日が変わりました。
ご確認の上奮ってご参加ください。どちらもお一人でもご参加いただけます。

▼連絡先: 武田正雄(7回生) ■ 045-321-5345 または 090-3515-1395 FAX. 045-324-0242
斉田美穂(37回生) 080-1353-2030 大黒康佑(54回生) 090-9375-1340

六浦祭

2018年10月26日(金)～10月27日(土)

今年も六浦祭が開催されます。すっかり新しくなった校舎や催し物・模擬店を見にいらっしやいませんか。私たち卒業生も六浦祭期間中、「六葉会の部屋」でお茶とお菓子を用意してお待ちしております。昨年も卒業アルバムや母校の移り変わりなどを航空写真でご覧いただきながら懐かしいお話で盛り上がっています。

■学校には駐車場がございませんのでお越しの際は公共交通機関等をご利用ください。

【2018 年度六葉会総会】

2018 年 5 月 19 日土曜日 13 時より
母校本館 2 階会議室

六葉会会員の皆様に六葉会の活動報告や決算報告をお伝えし、新年度の事業計画と予算案を審議していただいています。また、参加いただいている会員の皆様からご意見やご要望をお聴きする大切な機会となっています。関東学院六浦中学校・高等学校で学んだ方であればどなたでも参加していただける機会となります。今年度は役員を含む常任幹事の改選の年でもあり人事についても審議をいただくことになります。会報と合わせて送らせていただいています議案書に審議内容が記載されていますので是非ご一読の上奮ってご参加ください。総会終了後茶話会も予定しております。懐かしい同窓生にもお会いできるかもしれません。是非お誘いあわせの上ご出席ください。尚、会費は無料です。

◎ 第66 回生学年幹事の紹介

5 組	4 組	3 組	2 組	1 組
前田 花実	小野 匠	飯島 未賀	木山 智香	尾崎 涼夏
渡邊 優帆	木村 凱亜	石塚 千尋	塚原 萌	岸井 季葉

クラス会や学年会の開催の際には六葉会にご連絡ください。
(六葉会ホームページからアクセスできます)

※最新の住所録をご用意します。
※通信費の補助金を差し上げます。

■関東学院六葉会 〒236-8504 横浜市金沢区六浦東 1-50-1 TEL.045-781-2525

印刷：株式会社エイコープリント 2018.4

Back to KGM



関東学院六浦中学校・高等学校
在校生のみなさんへ

在校生のみなさん

初めまして、2021年度卒業生の六浦 学
です。

私が入学した頃の関東六浦は、「10年後、
20年後を見据えた教育」が展開されていまし
た。ちょうど2025年問題が話題になっていた
時期です。

例えば中1の最初から英語の授業は週に
6時間もあって、教科書はAll Englishの
“TIME ZONES”でした。5時間は外国人の
先生と日本人の先生のチーム・ティーチングで、
「CLILL」という学習方法でした。当時は珍し
かったですが、今では多くの学校がCLILLを導
入していますね。

自分の英語の力を試したくて参加をした、アラ
スカ研修やマレーシアのターム留学は、自分の
人生を変える大きなきっかけになりました。

この10年間で世の中は劇的に変動しま
した。

しかし、まったく変わらないものも存在します。
それは関東六浦の校訓「人になれ 奉仕せ
よ」にも通じる、他者のために力を尽くすこと
の尊さです。グローバル化やボーダレス化が
進む時代では、人と人とのコミュニケーション
がより重要になります。他者を思いやる精神こ
そが円滑な人間関係を構築できるのです。
関東六浦で身に着けた英語力、そしてキリスト
教の教えが、社会人となった私の大きな財産
です。

後輩の皆さん、未来をしっかりと見据えて、
充実した学校生活を過ごしてください。

2028年4月
70回生 六浦 学

在校生の活躍を
即でご覧ください！



中学入試に加え、高校入試を再開しました

お問い合わせ：045-781-2525 高校教頭 中田（34回生）まで

在校生宛の手紙はフィクションですが、ここに書かれている関東六浦の取り組みは実際に現在実施されているものです。



関東学院六浦中学校・高等学校